

第 10 表

府 県 別 民 有 地

本表は全国の各市町村（東京では区）が保管している土地台帳または土地補充課税台帳に登録された土地のうち、地方税法第 5 条第 34 条の規定により課税の対象となる土地にかんする各年 1 月 1 日現在の数字である。

府 県	総 数	市	部 郡	田	畑	宅 地	山 林	牧 場	原 野
昭 和 36 年	14 894 935	-	-	3 037 580	2 693 464	576 068	6 902 690	171 688	1 510 887
37	14 886 683	-	-	3 038 630	2 686 895	590 837	6 886 482	171 592	1 509 362
38	15 484 469	4 406 229	11 177 363	3 056 550	2 756 566	619 434	7 238 685	181 186	1 629 150
39	15 574 028	4 480 598	11 202 764	3 092 283	2 668 648	654 655	7 554 922	192 755	1 407 864
昭 和 40 年	15 720 005	4 522 891	11 197 114	3 096 708	2 660 923	677 409	7 574 457	192 483	1 399 042
北 青 海 道	2 747 174	462 661	2 284 513	220 076	681 529	37 806	1 051 857	177 133	551 724
岩 手 県	353 354	108 555	244 799	73 694	78 038	11 336	109 054	948	78 145
宮 城 県	707 170	196 226	510 944	69 985	76 732	12 658	395 760	8 736	142 220
秋 田 県	300 438	63 101	237 338	103 049	44 622	14 172	128 125	3	9 788
山 形 県	302 369	72 293	230 076	111 216	30 316	11 040	85 128	48	63 881
福 沢 県	342 503	144 636	197 867	101 118	44 352	10 873	145 259	8	40 097
茨 城 県	538 017	116 442	421 575	104 554	94 560	15 827	274 816	7	45 323
栃 木 県	414 021	98 283	315 738	96 678	135 106	24 321	139 129	56	16 563
群 馬 県	341 036	133 239	207 797	85 790	66 955	16 728	154 398	1 235	14 242
埼 埼 県	266 956	72 321	194 635	37 611	83 755	15 116	108 049	579	20 598
千 葉 県	250 267	103 531	146 737	66 272	88 388	25 902	63 213	-	3 383
東 京 都	355 830	132 264	223 566	103 319	86 368	25 485	122 215	1 424	13 601
神 奈 川 県	112 753	73 382	39 371	6 390	24 409	38 865	37 187	-	2 836
山 梨 県	140 464	91 990	48 474	17 078	39 417	26 959	49 071	-	5 038
富 山 県	491 798	175 028	316 769	180 703	54 703	20 191	212 557	-	18 608
石 川 県	149 364	60 778	88 586	75 900	10 406	9 046	48 200	-	3 487
福 山 県	165 583	71 957	93 626	53 518	15 189	7 651	82 885	0	5 228
山 梨 県	176 168	72 540	103 628	47 106	8 811	6 214	110 255	0	3 048
長 野 県	131 228	33 482	97 746	18 899	33 597	5 734	61 854	-	10 633
岐 阜 県	445 401	135 943	309 458	80 347	94 505	17 078	186 845	1 511	63 017
静 岡 県	481 007	90 647	390 360	64 638	31 134	12 625	353 922	-	15 362
愛 知 県	436 641	179 595	257 046	54 319	72 438	21 052	259 582	4	24 777
三 重 県	276 495	126 714	149 781	88 673	55 825	33 391	90 415	-	3 999
滋 賀 県	289 703	104 627	185 077	67 887	30 246	12 062	172 338	0	4 471
大 阪 府	173 009	28 490	144 519	63 947	8 490	7 969	88 331	-	3 403
兵 庫 県	167 977	81 455	86 522	38 533	13 831	18 753	100 375	7	2 900
和 歌 山 県	91 740	73 649	18 090	34 533	8 118	26 158	20 138	-	800
鳥 取 県	438 831	140 297	298 534	98 448	17 571	23 894	287 442	-	7 535
島 根 県	149 958	38 612	111 346	28 934	9 347	4 756	103 876	-	1 377
徳 島 県	247 095	38 483	208 612	26 120	17 514	5 408	196 316	1	1 358
香 川 県	152 101	31 213	120 888	32 949	16 518	4 666	78 288	-	19 189
高 松 県	376 719	99 043	277 677	52 860	21 408	6 407	288 404	2	6 354
愛 媛 県	342 481	95 888	246 593	85 828	32 819	13 207	202 450	-	5 242
高 知 県	453 368	88 768	364 600	70 188	31 081	14 043	331 933	3	4 239
徳 島 県	303 074	114 151	188 923	69 018	20 021	12 677	191 038	1	6 737
香 川 県	197 431	33 065	164 366	28 505	22 286	5 630	139 046	-	794
高 知 県	111 697	27 345	84 352	36 685	13 385	6 552	53 102	-	265
徳 島 県	286 622	83 727	202 894	42 300	43 480	9 548	188 480	0	1 499
高 知 県	337 806	108 105	229 701	33 868	23 319	4 467	270 912	-	3 589
福 岡 県	269 879	94 761	175 118	100 194	30 568	26 265	82 951	15	23 197
佐 賀 県	141 984	53 410	88 574	52 151	18 824	5 962	45 160	-	19 095
長 門 県	174 474	57 838	116 636	31 695	51 638	8 601	65 717	1	15 493
熊 本 県	280 870	65 166	215 704	77 856	72 490	13 678	92 805	742	22 585
大 分 県	211 540	66 357	145 183	55 817	32 904	8 900	78 550	-	33 685
宮 崎 県	221 471	81 022	140 449	46 794	49 653	9 279	94 381	15	20 356
鹿 児 島 県	374 138	101 810	272 328	60 663	124 250	16 456	132 650	-	39 280

第 2 章
気 象

第 2 章 気 象

概 況

昭和41年の大阪の気象状況をみると初春から暖冬ではじまり一時寒波の強まりを見せたが例年に比し高温多雨に経過し、晩春近く低温乾燥となった。梅雨は全般に不活発で、雨の降り方は陽性であった。盛夏は高温であり、台風の発生は赤道全線が北に偏よったために発生数は多かったが、大型なものは少なく来襲したものは24号のみで、それも衰えたもので風による被害は殆んどなかった。しかし台風により、前線がしげきされて大雨をもたらし、被害が発生した。晩秋から初冬にかけて例年より寒気が強く南下したため、昭和31年以来の寒さとなり年末まで続いた。

これを月別にみていくと、1月の上旬は暖冬に始まったが、後半寒波に襲われた。しかしまだ気圧配置は冬型ではなく、中旬17日から後半雨とともに西高東低と本格的冬型になった。特に19日には湿度が27%まで下り気温は平年よりやや低かったが寒さはきびしくなった。月末には寒波もやわらぎ気温も高目になった。2月にはいっても同様に高めの気温であったが、5日からの寒波は冷え込みも強く俄雪も降り、7日夜から8日にかけて今冬一番の寒さとなったが午後には平年並にもどった。中下旬にも1度づつ寒波はあったが持続しなかったので気温は高目に経過し、月平均気温も1.8度も高く、また中下旬には雨も多く、低気圧が太平洋岸を通ることが多く、降水量も平年の2倍に達した。

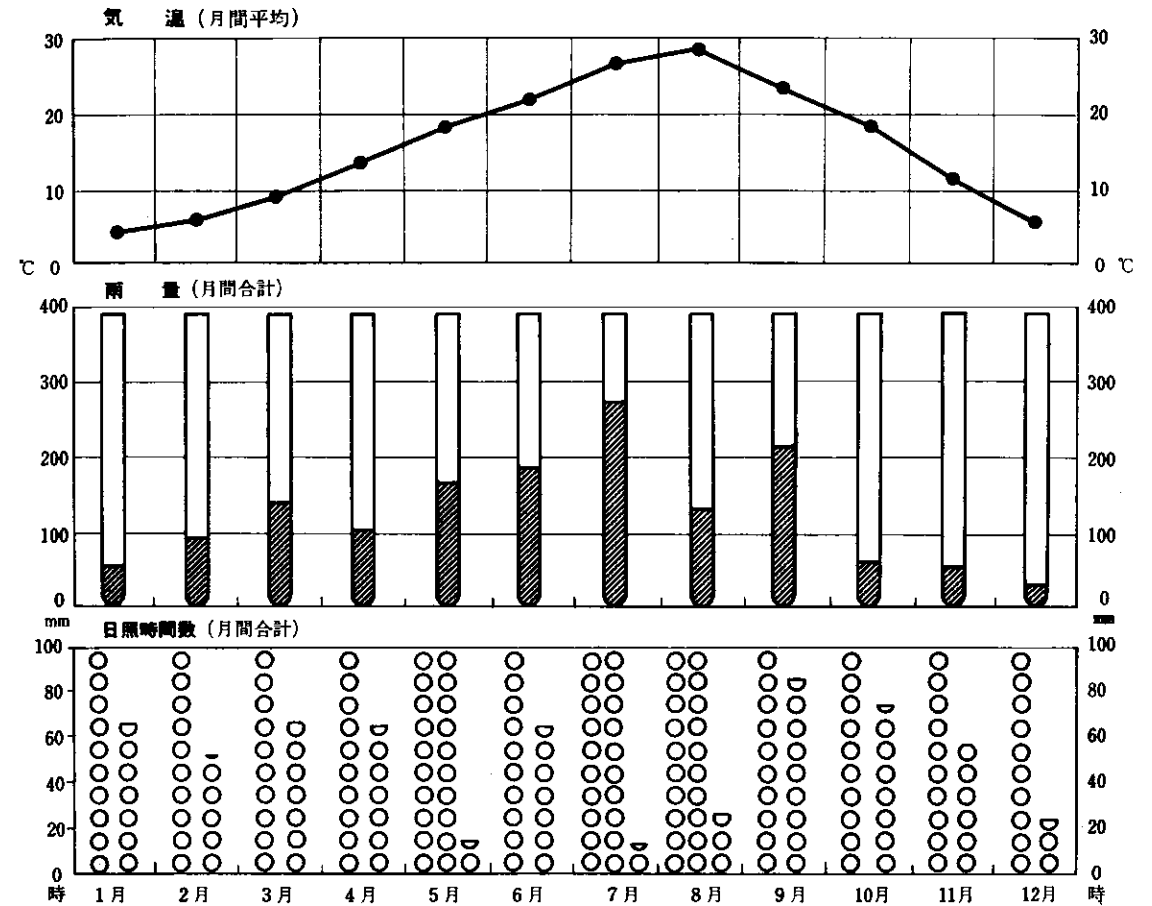
3月にはいと始めから菜種梅雨の現象がいちじるしく、上旬は停滞した前線と続行した低気圧の移動で連日雨が降り、約1週間で平年の3月降水量に達した。気温も高く4日には5月下旬の陽気にまで上昇、引続き中旬も高温が続いた。しかし下旬には寒波もあり、平年より低温の日もあらわれたが全般に高温多雨であった。4月始めは低気圧や気圧の谷の影響で、天気の変化がはげしく前月下旬に引続き低温傾向に過ぎた。中旬にも同様な状態で16日から一時冬型になり西寄りの風も強くなり、低温とともに19日朝の冷えてみはきびしく平年より10度も低かったためおそ霜を見た。下旬には南方海上に中心を持つ高気圧の影響で逆に気温が上昇して初夏を思わせる高温となった。5月も前半は高温傾向を持続し、中旬終りごろから下旬にかけて平年より低目の日が多くなった。天気は順調であったが、雨天には降水量が多く平年より上廻った。中旬16日～19日にかけて好天が続いたため異常乾燥となり、特に18日には最少湿度は23%まで下った。下旬21日から22日とかけ台風2号くずれの温低の通過ともないかなりの風雨に見舞われた。

6月にはいと梅雨は例年より不活発でドライ型の天気が多かった。上中旬は低温傾向に過ぎたが、下旬には高温傾向となった。雨は一雨毎にかなりの降水量があり、1日、9日、12日、はそれぞれ50mm、35mm、47mmを記録した。月末から7月上旬にかけて本格的な梅雨型と変わり、末期症状的大雨が多く、特に1日、2日、8日には強雨となり、降水量はそれぞれ120mmに達し、1日の最大時量も32mm、47mmを記録し、低地帯で浸水する処が多かった。そのためオホーツク海高気圧の影響とともに低温となり5月下旬の涼しさを感じさせた。しかし13日には梅雨も明け本格的な夏となった。8月の気温は平年よりやや高めに終始降水量もやや多かったが大した差はなかった。上旬は連日最高気温30度を越え、8日には最高の37.1度を記録した。中旬始めは雷雨や台風による前線の動きで活発な雨もあった。中頃から下旬中頃にかけて暑さもやわらいだが、月末近くに再び夏型気圧の配置となり残暑はきびしくなった。また18日19日にかけて大潮が標準潮位を30cmも越え0m地帯では浸水した処もあった。

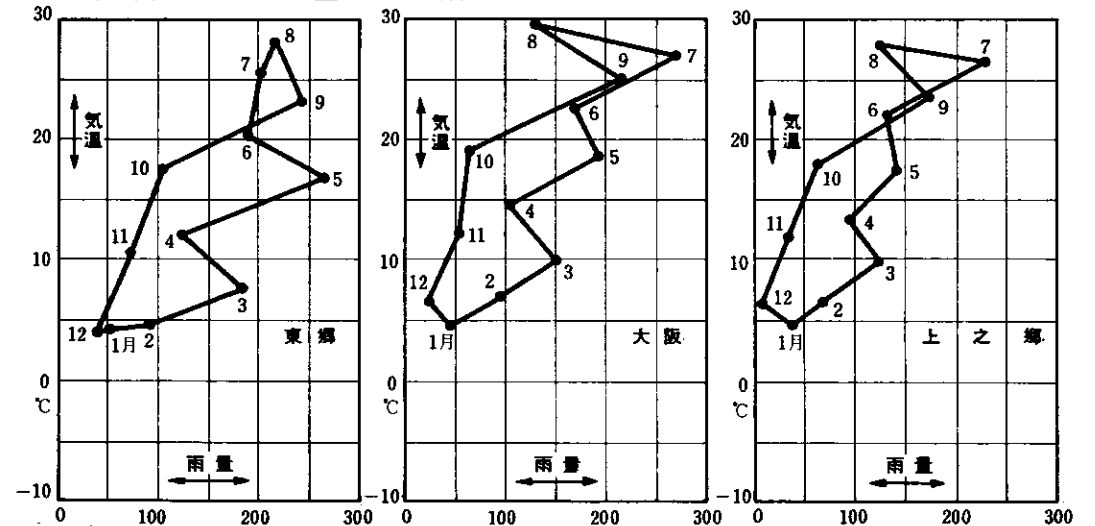
9月になっても残暑がきびしく中旬はじめまで続きその後徐々に涼しくなった。後半は台風の余波で雨が多く、降水量は平年より26%上廻った。即ち9日に台風19号、18日は21号、23日24号が近畿周辺を通過したため雨が降り、特に18日夜には雷とともに最大時量57mm、日量としては101mmにも達する豪雨となった。また13日を境として残暑も去り月末には冷え込みも強くなり、30日朝には平年より5度も低い気温となった。しかし10月は秋晴れの好天が続き、降水量も平年の約半分にとどまった。また台風の影響がなかったのも一因であろう。しかし13日朝に発生した濃霧は視界50m以下となり、東海道線はじめ交通機関は混乱し、また31日も濃い霧の発生をみた。11月は前半より天気にめぐまれ気温もやや高めで降水量も少なかった。後半は週期的に天気も変わり気温は低めとなった。21日には冬型の気圧配置となり季節風も強くなった。22日も寒く初雪があり、翌23日には初霜をみた。またスモッグの発生も季節風が強くない日は毎日発生し、11月のスモッグ発生数の最多日数が記録された。

12月は全般に冬型気圧配置が発達して寒さがきびしかった。また晴天の日が多かったので降水量は全般に少なく平年の約半分にとどまった。寒波は13日～14日と26～30日の2回が特に強く、14日は俄雪がちらつき北部山間部で20cm積雪をみた。28日の朝には-2.1度の最低気温を観測した。

気温・雨量と日照時間数 第2表参照



気温(午前9時)と雨量の相関関係



第 1 表 大阪管区気象台

本表は「近畿気象要覧」によつたものである。

Table with columns: 位置, 経緯度 (東経, 北緯), 海面上高, 創立年月日, 主要材器の位置. Includes data for 大阪市生野区勝山通9丁目22.

資料 大阪管区気象台。

第 2 表 気 象 概 況

本表は大阪管区気象台での観測概況である。平均気温は1日8回の平均値から、平均湿度は相対湿度ともよび1日4回の測定値からその日の平均値が計算される。雲量は全天雲に被われた場合を10とし、雲のない情態を0とした基準、平均風速は0時~24時の全風程から求められている。平年各欄のうち※印は過去における最高最低および最大値である。

Table with columns: 年 月, 平均気圧 (海面), 気 温 (平均, 最高値, 最低値), 平均湿度, 雲量, 風 速 (平均, 瞬間最大, 風 向), 降 水 量 (総量, 最大時量), 日照時間 (総 数). Includes monthly and annual data from 昭和37年 to 平 年.

資料 大阪管区気象台 (大阪府気象年報)

第 3 表 天 気 の 概 況

本表は大阪府管区気象台での観測結果による日数である。

Table with columns: 区 分, 昭和38年, 昭和39年, 昭和40年, 昭和 41 年 (1月-12月). Includes categories like 降水量, 日照日数, etc.

資料 大阪管区気象台 (大阪府気象年報)

第 4 表 気象官署区内観測所の平均気温

本表は標記各観測所において観測したものである。()内は観測値が欠けているものを除いた平均値である。

Table with columns: 地 名, 昭和38年, 昭和39年, 昭和40年, 昭和 41 年 (1月-12月). Includes locations like 大倉, 阪治, 鳳田, etc.

資料 大阪管区気象台 (大阪府気象年報)

第 5 表 気象管署内観測所の降水量

本表は標記各観測所において観測したものである。()は欠測による誤差が警管観測所の観測から推定して10%以下と考えられる数値である。

Table with columns: 地 名, 昭和38年, 昭和39年, 昭和40年, 昭和 41 年 (1月-12月). Includes locations like 大倉, 阪治, 鳳田, etc.

資料 大阪管区気象台 (大阪府気象年報)

第 6 表

大阪市内の地盤沈下量

本表は大阪市の依頼により大阪管区気象台の観測によつたもので()は推計値。㉑、㉒は観測井戸管の深さによって区別してある。

Table with columns for year/month, location (鶴町, 九条, 西島, 島屋町, 天保山, 田中町, 姫島, 中之島, 十三, 蒲生), and ground subsidence values in mm. Rows include years 1937-1940 and months 1-12 for 1941.

資料 大阪市総合計画局公害課

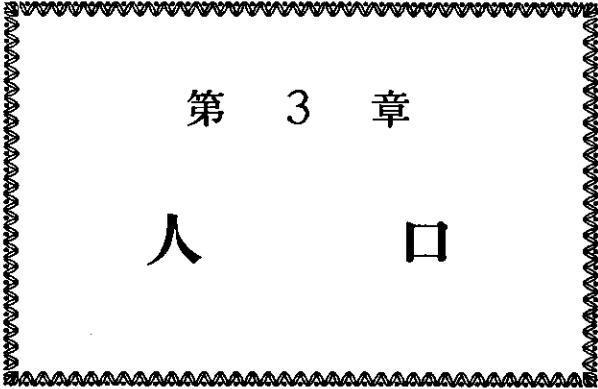
第 7 表

全国気象概況

本表の「平均相対湿度」は毎日3時、9時、15時、21時の4回の観測値を、「平均気温」はこの4回に更に6時、12時、18時、24時を加えた合計8回の観測値を算術平均したものである。「快晴日」は日平均曇量2.5%未満をいい平均値は昭和6-35年の平均値である。a)は昭和16-35年の平均、b)は26-35年の平均である。

Table showing national weather overview with columns for observation station, average temperature, average relative humidity, and precipitation. Rows list various stations across Japan like 北海道, 東北, 関東, etc.

資料 気象庁観測部統計課「気象庁年報」



第 3 章

人 口